

町工場の脱水機 大好評

葛飾区の従業員11人の町工場が、斬新な製品を次々と生み出している。もとは医療用モーターを製造していたが、スポーツジムの依頼で開発した水着用脱水機が人気に。昨年からはコーヒーのネルドリップに使う布フィルター専用の脱水機も作り、出荷を始めた。

コーヒー布フィルター用も

葛飾 ハヤブサ技研

この町工場は、同区東四つ木の脱水機メーカー「ハヤブサ技研」。医療用ドリルのモーターや滅菌器を手がけるメーカーで、1987年に設立された。

転機が訪れたのは、設立2年後の89年。当時、アメリカではスポーツジムに水着用の脱水機が設置されていることが多かったが、日



コーヒーフィルター用の脱水機(葛飾区東四つ木で)

本ではほとんど導入されていなかった。電機メーカー社に断られたという大手スポーツジムから「おたくの技術力でなんとかできないか」と相談を受け、開発に乗り出した。

浜義人社長(75)はドリルのモーター開発で培った技術を電機メーカーに提供し、通常の洗濯機の4倍の速度の毎分3500回転のモーターを共同で開発。試作品をジムに1週間置くと、撤去後に利用者から「なにと不便だ」と評判になった。

振動と騒音を減らす工夫も加え、93年に販売を開始。わずか5〜10秒で水着の水分を90%以上飛ばせる性能のよさが人気を呼び、国内外への出荷台数はこれまでに計1万台に上る。

2014年には、水着用脱水機の評判を聞きつけた

大手コーヒーチェーンから、「ネルドリップコーヒー用の脱水機を作ってほしい」と依頼を受けた。ネルドリップコーヒーは、布フィルターを使ってコーヒーをこすがる。使用前に布を絞って水気を切る必要がある。力仕事で苦痛でアルバイト店員が辞めてしまうこともあると聞き、浜社長は、わずか1か月あまりで布フィルター用脱水機を完成。昨年2月に納品を開始し、先月までに約40台を出荷した。

布フィルター用の脱水機の納品先は、現在は大手コーヒーチェーンだったが、浜社長にはある願いがある。「都内の昔懐かしい喫茶店は、経営者の高齢化が進んでいる。この脱水機が

あれば年配のマスターを支えられる」。使い勝手をさらに向上させるべく、日々改良に取り組んでいる。